

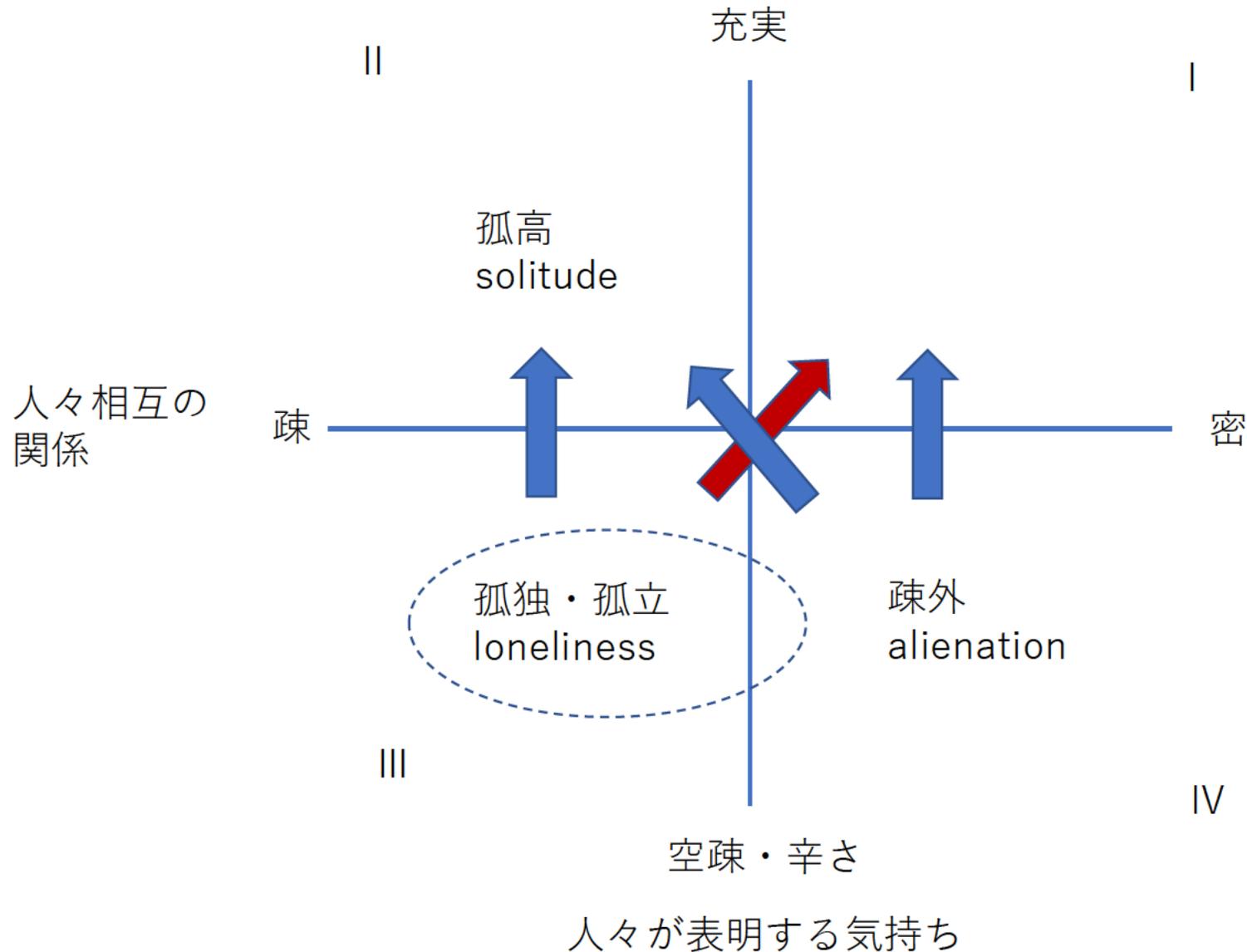
令和3年11月12日

第1回孤独・孤立対策の重点計画に関する有識者会議

孤独・孤立対策をめぐって

宮本太郎（中央大学）

1 孤独・孤立について整理してみる

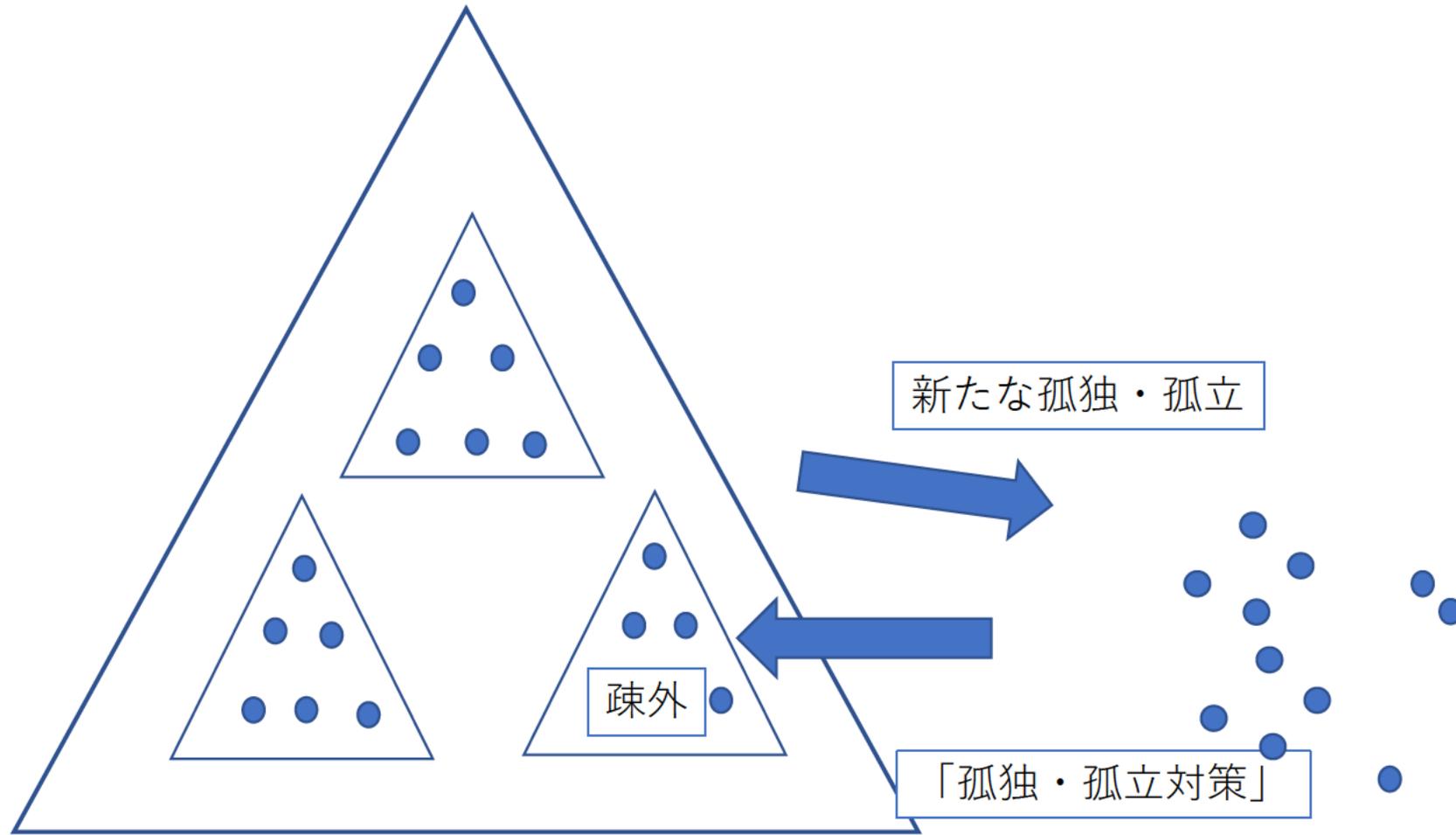


イギリス政府の孤独定義

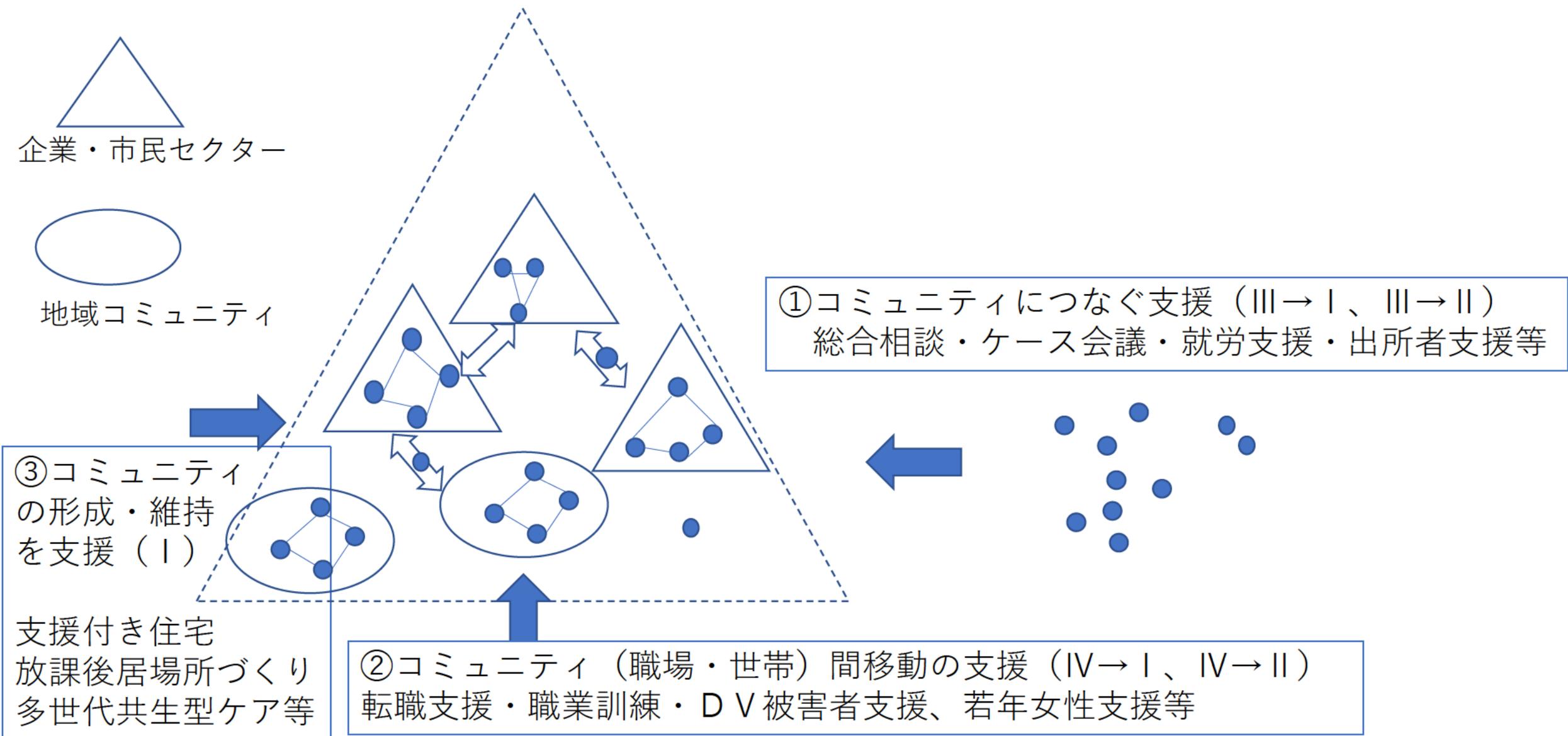
社会関係の量と質について
私たちが望むものと現実が
合致しないときに孤独が
生じる

“A Connected Society:
Strategy for Tackling Loneliness”

2 疎外感強い関係につないでも孤独・孤立を解消しない



3 孤独・孤立対策に求められる複合的多面的機能



4 孤独・孤立対策が目指すべきもの（施策の刷新）

* 孤独・孤立をなくし、誰もがつながりのなかで自己肯定感を高めることができることの政策的効果は、これまでも分野横断的に（高齢者、子ども、生活困窮、雇用、まちづくり等で）重要な課題として意識されてきた。だがKPIとしては確立しなかった。（法律として初めて取り上げられたのは生活困窮者自立支援法の2018年改正）

* 孤独・孤立対策がもう一つの縦割りとなったり、既存の縦割り諸施策のホチキス留めに終わっては残念すぎる

* 目指されるべきは、①つながり・「場」づくりそのものがKPIとなり、個別政策の現場が自信をもち、施策の推進力高まる ②縦割りに横串が入り、新たな「場」づくりが広がる（子ども食堂、支援付き住宅など） ③新たな「場」づくりの担い手が増大する（とくに民間非営利セクター）

5 孤独・孤立対策が目指すべきもの（国民へのメッセージ）

* 孤独・孤立は誰にとってもたいへん辛く、地域の活力も低下させる
にもかかわらずもっともSOSを出しにくい事柄

* なぜ？ ①強いスティグマとくに男性 ②これまでのつながり
(IV) で傷ついた経験から新たなつながりを怖れる（当然）

* メッセージ ①スティグマの除去（この時代のあたりまえ イギリス政府のLet's Talk Lonelinessキャンペーン） ②つながりを選ぶこと、つながりに根を張ることの提案（秋田県藤里町の経験等）